

第104回 (公財)かすがい市民文化財団 presents

かすがい日曜シネマ

精一杯の愛でした。

その手紙は、

35年目のラブレター

笑福亭鶴瓶 原田知世
重岡大毅 上白石萌音
監督・脚本 塚本連平

3月7日(金) 全国公開

心温まる感動の実話
読み書きできない夫と幸せを教えてくれた妻が歩んだ人生

©2025「35年目のラブレター」制作委員会

※3/7(金)は劇場公開当時の日付です。

9/7 (日) 文化フォーラム春日井・視聴覚ホール

1 10:15～12:24頃 2 13:30～15:39頃 指定席
【開場10時】 【開場13時15分】 音声ガイド付

9/21 (日) 春日井市東部市民センター

13:30～15:39頃 【開場13時10分】 音声ガイド付 指定席



映画の背景がよくわかる
10分のミニトーク付き



上演時間 119 分



目が見えない、見えにくい方のための
セリフや情景をイヤホンで案内する
音声ガイド付き



寄り添い、支え合って生きてきた35年。
最愛の妻へこれまでの感謝を込めて、この「ラブレター」を贈る――

2007
結婚35年――

1972
出会い――

「君は、僕と結婚して、幸せでしたか？」

Story

西畑保、65歳。文字の読み書きができない。そんな彼の側にはいつも最愛の妻・餃子^{ガコ}がいた。

保は貧しい家に生まれ、ほとんど学校へ通えず大人になった。生きづらいい日々を過ごしてきたが、餃子と運命的に出会い、めでたく結婚。しかし、その手放したくない幸せ故に保は読み書きができないことを言い出せずにいた。半年後、ついにひた隠しにしていた秘密が露見し別れを覚悟する保だったが、餃子は保の手をとりながらこう告げた。

「今日から私があなたの手になる」

その言葉に、その眼差しに、保は救われた。

どんな時も寄り添い支えてくれた餃子へ感謝のラブレターを書きたい。定年退職を機に保は一大決心し夜間中学に通い始める。担任の谷山恵先生のじっくりと粘り強い教えや年齢・国籍も異なる同級生たちと共に学ぶ日々で少しずつ文字を覚えていく保。だが老齢のため物覚えも悪く、気付けば5年以上の月日が経過した頃、一字また一字と書いては消した書くひたむきな保と、それを見るときもなく見守る餃子は結婚35年目を迎えていた。

変わらない日常がいつまでも続くと思っていた。なかなか書き上げられずにいたラブレターがようやく形になろうとしていた頃、餃子が病魔にかかされて……。

©2025「35年目のラブレター」制作委員会

発売日 7月15日(火) 9:00～ ※両会場とも同じ発売日です。
※発売日初日のみ、電話・Webでの予約購入は10:00～になります。

取扱い 〈窓口販売〉 9:00～17:00
文化フォーラム春日井2階・チケットカウンター
春日井市東部市民センター2階・事務室

〈電話予約〉 TEL 0568-85-6868

〈Web予約〉 かすが市民文化財団HPより
www.kasugai-bunka.jp
※Web会員登録(無料)必要



予約サイト

入場料 前売券:900円
当日券:1,000円
PiPi会員:800円(当日券同額)
※税込、全席指定、未就学児入場不可

**学生
特券**

小中高 / 500円

鑑賞おすすめ年代:中学生以上
※小学生は要保護者同伴

●セブンイレブンでもチケットの引き取りができます。●前売り完売の場合は、当日券の販売はありません。●車イス席をご希望の方は、窓口か電話でお申込ください。

〳 今回の音声ガイドを担当します /

協力 ボイスくら

ロビーにて受付をしております。
どなたでもお気軽にご利用ください。

